

桜陽高校だより

教育とウェルビーイング

校長 西川 勤



校 訓

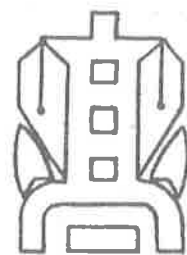
賢く 強く 豊かに

学校教育目標

- (1) 研學に努め、知性を錬磨する。
- (2) 環境を整え、公共心を涵養する。
- (3) 責任を重んじ、道義心を涵養する。

令和5年度も無事前期が終了しました。今年度は、4月10日の入学式におきまして、200名の新生を迎え、全校生徒574名でスタートしました。昨年度に完全5間口が完成し、単位制移行後も着実に進学実績をのばしつつ、「なりたい自分を目指す学校」として、スクールミッション（本校の存在意義）を踏まえた教育活動をより一層推進し、生徒・保護者、地域・同窓生の期待に応える教育活動を展開しております。桜陽生は、礼儀正しく、何事にも前向きで、各種学校行事に対してもしっかり取り組んでいます。

令和5年度学校経営方針では、校訓・学校教育目標・スクールミッション（目指す学校像・地域における本校の使命）・スクールポリシーを踏まえ、



目 次

- P1 学校長
- P3 1年次主任
- P4 教務部
- P5 生徒会
- P6~10 部活動報告

第 107 号

令和5年

9月吉日発行

「主体的に学習に取り組む態度の育成」、「個別最適な学び」と「協働的な学び」に力点を置き、主体的に学習する態度を養い、進路目標の達成を図ること、探究活動を基盤に、課題発見力を養い、教科横断的に課題解決能力を育成すること、ICT活用を基盤に、情報収集・活用・発信能力を養い、主体的実行力を育成することを重点目標としています。特に探究学習の充実、ICT活用能力の養成においては、校内に新しいプロジェクトチームを立ち上げ、組織的に取組を進めています。

学校教育活動においては、5類移行にはなりましたが、コロナ禍の中、仮装パレードも含め桜陽祭が完全復活で開催でき、生徒達の一体感と達成感を生み出すことが出来たことを大変嬉しく感じています。

在校生は、毎日の勉学に真剣に取り組むことは勿論、部活動にも84%（482名）の生徒が加入し、多くの部活動が活発な活動を展開し支部予選を勝

ち抜き、今年の高体連では、11の競技（陸上、男子バレーボール、バドミントン、弓道、卓球、ラグビーフットボール、ボート、ソフトボール、テニス、ソフトテニス、柔道）で全道大会に出場し活躍し、ボート部では国体北海道選抜、ラグビーフットボール部では全国高校U18合同チーム代表メンバーに選出されました。高文連でも、5つの部（新聞、放送、図書、書道、美術）が全道大会へ駒を進め、新聞局が全国大会に出場しました。また、ボランティア活動にも積極的に参加（令和4年度後志管内教育実践表彰受賞）する等、人間性豊かで、知・徳・体のバランスの取れた「桜陽人」を確実に体現してくれています。

このような「文武両道」の生徒の活躍に、歴史と伝統ある後志地区の中心校としての本校の存在意義を改めて認識し、その責任の重さを強く実感しています。

ともあれ、次代を担う若者には、こ

れからの時代を生き抜くためにも、期待される様々な能力を身につけることで、現在及び将来に向けての「ウェルビーイング」を願いたいと思います。そのために我々大人ができることは、将来に向かって希望が持てる環境づくりに尽きるのではないかと日々考えています。今回は、この「ウェルビーイング」とは何かを皆さんと共有したく、紹介させてもらいます。

直訳すると「幸福」「健康」という意味の「well-being（ウェルビーイング）」。「幸せで、肉体的にも精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。人の生き方全体に関わるキーワードですが、教育においても、世界的に非常に重視されている考え方です。教育に関連する「ウェルビーイング」では、経済協力開発機構（OECD）が提唱する「生徒が幸福で充実した人生を送るために必要な、心理的、認知的、社会的、身体的な働きと潜在能力」という考え方が世界的に受け入れられています。OECDはまた、「教育の目的は、個人のウェルビーイングと社会のウェルビーイングの2つを実現することである」としています。つまり、教育の目的は、

「子どもたち一人ひとりと社会全体が、現在から将来にわたって幸せで満ち足りた状態となるため」、言い換えれば「個人も社会もウェルビーイングな状態を実現する」ということです。

「ウェルビーイング」は学問的な研究分野でもあり、日本では慶應義塾大学大学院の前野隆司教授が日本のウェルビーイング研究の第一人者です。前野先生によれば、「幸福の対象には、地位財と非地位財があり、地位財は長続きしない幸せで、他人と比較できるカネ、モノ、地位などであり、非地位財は、精神的、身体的、社会的に良好な状態、つまりウェルビーイングである」と提唱し、この非地位財につながる心の状態を分析した結果として、次の「幸せの4つの因子」を明らかにしました。

①「やってみよう」因子（自己実現と成長）、②「ありがとう」因子（つながりや感謝、利他性やおもいやり）、③「なんとかなる」因子（前向き、楽観的、チャレンジ精神）、④「ありのままに」因子（独立性と自分らしさ）この4つの因子を意識して、自分が何に幸せを感じるのかを知っておくことで、ウェルビーイングは実現できると前野先生は述べています。例えば、夢や目標をも

つこと（やってみよう因子）は幸せに通じ、それを誰かと語り合うこと（ありがとう因子）で幸福度が高まり、「どうせ、でも、だって」などのネガティブな言葉を口にしないこと（なんとかなる因子）や、自分と他人を比較しないこと（ありのまま因子）を心掛けることが幸せにつながるということです。

これまでは、知識・技能を習得する教育が特に重視され、将来のために今を犠牲にして、詰め込み型の勉強を強いられてきました。確かに将来の幸せは大切ですが、それと同じくらい「今」が幸せであることも大切です。興味があることに夢中になって取り組むことが本来の勉強なのだと発想を転換できれば、子どもたちは「今」をもっと幸せに感じられるはずです。知識・技能だけが必要とされる力は、今後はAIやロボットに代替されていきます。人間には、習得した知識を現実の世界で活用できる力が必要とされます。好きなことに打ち込んだり、時間をかけて一つのことにじっくり取り組んだりする経験を重ねることで、思考をめぐらせ、試行錯誤し、やりたいことを夢中にやりきった達成感を得て、次のことへのチャレンジに繋げること。そう

したよい循環が「今」のウェルビーイングを高めると同時に、将来のウェルビーイングに繋がる様々な力となっていくのではないのでしょうか。

結びになりますが、保護者の皆様の本校教育活動に対しましての深いご理解と心強いご支援に心から感謝申し上げますとともに、今後とも一層のご理解とご支援を申し上げます。



桜陽生のウィーク

ポイントについて

1 年次主任 古主正信

2014 年 4 月に桜陽高校に赴任して、今年で 10 年目となります。ちょうど

子どもが生まれる時と重なって、赴任して数年間は担任をもたないなんてこともありました。その後、担任をもち、周りの先生に恵まれながら、無事に卒業生を出すことができました。その後、生徒指導部長もやらせていただきました。その中で、君たちの先輩の姿を見てきて、もう少しこうしたら良いのになあなんて思ったことを書かせてもらいます。

1 経験のなさ

もっと自信を持って、大会に臨めば良いのに…、面接練習の時、こんなこと頑張ってきたことを、胸を張って言えばいいのに…なんてことを何度思ったことか。先輩たちは、経験のなさだと言います。でも、果たしてそうなのでしょうか。自信を持てるように、練

習に臨んでいますか。頑張るということに価値を持っていますか。それは誰かが与えてくれるものですか。経験など自ら望めばいくらでもできるのではないでしょうか。

2 言われたことしかやらない

「黒板消しておいて」と言われて、書いてあったものは消すが、汚い。結局、先生が黒板消しクリーナーで綺麗にしてから黒板を消す。「係の人、プリント集めて提出しなさい」と言われて、みんなに声をかけ集めるが、裏表、上下がめちゃくちゃに集めてある。その後、先生が一枚一枚向きをそろえて、出席番号順に並べる。課題はやるが、字が汚い。物を運ぶが、置き方が雑である。そんな先輩によく言ったものだ。「仕事って知っている？相手の望み以上にするのが仕事だ」と。あとでそれを見る人がいることを意識しなければいけない。

3 優しすぎる

部活動で勝負時に厳しくできない選手たち。ダメだとわかっていながら、

注意できないクラスメイト。そんなとき先輩方は、「そんなことを私は言えない。言える立場にない。」「言ったら逆に責められる」それは一見優しく見えるが、結局、それを許すことによって周りに悪影響を与えている。悪いことを悪いと言われて、何か言い返すような人は、大人が指導します。「それはチクるといふことになるんじゃないか？」チクるといふ何が悪いのでしょうか？悪いことを悪いと言えないことの方がヤバいのではないのでしょうか。

4 楽しいということの履き違い

「学校祭ってメッチャ盛り上がるし、楽しいよね」なんて、言っていたはずなのに、準備期間には様々なことが起こります。意見が合わない、自分の言っていることを聞いてくれない、なんて不満が出てきます。「先生、レギュラーになれなかったの、今部活動が楽しくありません。」「〇〇先生の授業楽しくない」これらの楽しいってどういう意味なのでしょう。レギュラーになれなくて楽しくないのであれば、バレーボールでは6人しか楽しくありません。本当の楽しいという感覚をつかん

で欲しいと思っています。今、私が思う楽しいことは、例えば、君たちが、できなくて苦しみながらも乗り越えようと挑戦をし、一生懸命頑張っている姿を見ることがとても楽しいです。それは手を叩いて、ワッハッハって笑っている「楽しい」ではない。見ているこちらだって苦しい。でも楽しい。そういうことだと思います。

5 勉強ができることに価値をもちすぎる

最近はないですが、一時期考查中に不正行為を行う先輩がいました。その3 誰かが理由として挙げるのが「良い点、良い成績を取りたかった」。数学では習熟度別授業をしています、上位のクラスの生徒が下位のクラスの生徒をバカにする。だいたい、こういう先輩方は、成績も落ちていきます。「驕れる者久しからず」という言葉を知っていますか。もちろん、勉強をするのが学校なので、良い点を取ることに越したことはない。ただ、それだけが価値なのだろうか。価値とは、自分が好きであり、他人にどういう影響（施し）を与えるかだと思っています。

以上、5点が私の感じている桜陽生の弱点である。そして、それは、昨年度の桜陽だよりにある宮澤先生が書いてある桜陽生のストロングポイントと通じることがあるのではないか。宮澤先生は、1. 経験値、2. 素直さ、3. 優しさ、4. 楽しむ心、5. 多様な価値

を桜陽生のストロングポイントとして挙げている。その裏返しが、私の感じている桜陽生のウィークポイントである。私の言いたいことは宮澤先生の言うていることと表裏一体であると言うことです。経験がないと思うのであれば失敗を恐れずに自分の頭で考えて自ら望んで経験すれば良い。言われたことをやる素直さを大切にして、少しだけ人のことを考えてみよう。君たちは優しい。でも本当の優しさとは厳しさに裏打ちされたものではないでしょう。楽しいことは悪いことではない。何でも楽しめる君たちは素晴らしい。ただ、本当の楽しさとは苦しさと一体であることを学んで欲しい。勉強とは、教科書に載っていることを覚えるだけではない。それよりも大切なことがたくさんある。例えば、人間関係の構築の仕方とか人の言っていることを正しく理解するとか人の気持ちを推し量る

ことができるなどです。桜陽生には残りの学校生活で学んで欲しいことです。特に1年次生、君の心の持ちよう、何でも吸収しようという姿勢で、高校生活はとても素晴らしいものにできることを君たちの先輩は証明してくれています。

「サンドルに短パンで

富士山に登るのか？」

教務部長 小川 将

皆さんは登山をしたことがあるでしょうか？

日本が誇る、標高3776.12mの富士山。山頂で御来光を拝もうとする老若男女が登山道に列を成している映像がたびたびニュースなどで流れるせいか、誰でも容易に登れる山というイメージが広く浸透しているように感じます。しかしその一方で、遭難事故が相次いでいるとのニュースも目にします。日本一高い山とあって海外からの観光客も多く、Tシャツに短パンなどの

軽装で挑む登山者が少なくないようです。昨夏には、低体温症で東京都の男性が死亡しています。

警察は「万全の準備をすれば防げる事故が多い」と注意を呼びかけているようですが、ほとんどヒモだけといった、街中を歩くようなサンドルでの登山が後を絶たないといえます。

受験はよく、登山に例えられることがあります。諦めずに歩を進めることこそそのみが目標を達成できる唯一の方法とされるからでしょう。

登山の際、大きな山であっても遠くから眺めた時には小さく見えます。しかし、だんだんと近づくにつれ、その山は非常に大きく、斜面がとても急であることに気が付きます。

受験も一緒で、志望校を目指し始めたときは現実味がなく、漠然と目標が小さく見えてしまうかもしれません。

そのため、特段何の準備をするでもなく、なんとなく学校生活を送っているが自然と学力が付いてくると考えてしまい、結果、勉強を始めたときに初めて気が付きます。自分の目標が富士山の様にとっても大きく、登りきるのが困難であるにもかかわらず、何の準備もしてこなかったことに。

考え得るあらゆるリスクに対して装備を整え、小さくとも一步一步確実に前へ踏み出すことで富士山の登頂を可能にします。

つまり、皆さんはやれるだけの受験対策をし、努力を積み重ね、はじめて進路実現という山頂にたどり着くことができるのです。

登り始めたばかりの1年次生は、必修科目を中心に基礎力を身に付けてください。中腹に差し掛かった2年次生は、卒業後の進路を見すえた発展的な学びを広げてください。いよいよ山頂が視界に入ってきた3年次生は、個々の進路目標に合わせた高いレベルの学びを深めてください。

途中でおいでいかれひとり遭難することのないよう、足を止めることなく計画的に学習を進めましょう。

ただし、残念ながら努力した人がすべて報われるとは限りません。

それでも、成功した人はすべからく努力をしています。また、あるアニメの台詞に「チャンスは準備された心に降り立つ」とありました。

皆さんのもとにも、チャンスが降り立ちますように。

桜陽祭終了 皆様ありがとうございます。

そして、生徒会執行部お疲れ様でした。

生徒会担当 寺本宜生

七月七日(金)から九日(日)の三日間にわたって第七〇回桜陽祭「ふうん・・・桜陽祭ってコト・・・」が行われました。まずは、全校生徒の皆さん、お疲れ様でした。

この桜陽祭は、コロナ禍に伴いまして、令和二、三年度は中止としました。また、昨年度は実施こそ致しましたが、制約を設け、内容も変更して実施しました。今年度は、コロナウィルス感染拡大のための行動規制もなくなることから、令和元年度以前に行っていた桜陽祭「一日目仮装パレード」、「二日目クラスステージ」、「三日目クラス企画・模擬店」の三部門での実施を目指しました。

ところが、いざ三部門復活しようといったものの、とにかく何もわからない、ほぼ手探りの状態からのスタートでした。私もどうやればよいのかわからない、当然生徒も何をするのかわからない。何せ四年ぶり、誰もノウハウを持っていないという中で、多くの方々に

方に御協力いただきました。外部の企業や団体の方にもお世話になりました。また、PTAの方々や、桜陽会の皆様にもお世話になりました。本来の業務がある中で、突然の依頼もしました。無理なお願いもしました。そのような中でも快くご協力いただけただけに、ただただ感謝しかありません。本当にありがとうございます。

そして、生徒会執行部、特に三年生には、本当に感謝しています。最後の桜陽祭ということだけでなく、桜陽祭の復活に向けて本当に尽力しました。皆さんの働きがあったからこそ、無事に桜陽祭を終えられたのかと思います。石塚紗世子さん。ステージ企画責任者として、何度も粘り強くクラス責任者と打ち合わせを重ねたおかげで、滞りなく二日目ステージ終えることができました。企画書しつかり作ることの重要さ、伝わってほしいですね。菊地敬悟君。文化委員長として、各クラスへの指示、そして受付業務お疲れ様でした。スリッパはちよっと反省してます

よ。佐藤葵さん。桜陽祭だより担当。

あれ誰がやつても全ての業務が終了してからでないかと作れないんだよね。わかってるだけに感謝しかありません。小林大希君。こまめに校内の巡回を担当してくれました。目の行き届かないところもあるし、生徒会担当教員は細かな各クラスの動きが見えない。助かりましたよ。川島麻瑚さん。まさに黒子、縁の下で支える仕事が多く、負担をかけました。こういう人がいないと物事上手く回らないんだよね。八木沼侑香さん。間違いない仮装パレード成功の最大の立役者。細かく、全クラスへ配慮した仕事ぶり。素晴らしかったです。あなたの頑張りでなんとかりましたよ。伊藤哲君。クラス企画と校内装飾の責任者。まさかの企画十三クラス。大変だったよね。校内装飾も軽く感動しました。けど、まあよく何でもやってくれました。働き過ぎだね。

岡田光貴君。自治委員会を中心とした警備の達人。生徒玄関に張り付いていることが多く、神経を使ったかと思えます。最後においしい出番があつてよかったね。塚原響樹君。実働部隊として、活躍してくれました。どこにでもいた。何にでも関わってくれた。何で

もやった。本当に頼りになる存在でした。時々叫んでいたことは黙っておきますよ。執行委員長米田海翔君。模擬店責任者。模擬店無事に終わってよかったよね。訳わからない中、よくやってくれました。苦労したね。何より全体の指揮者として、バランス感覚を持ち、全校生徒のことを考えてあたってくれました。本当に感謝しています。

今年度、桜陽祭を担当することとなりましたが、本当に色々な方に支えられ、終わることができました。皆様に感謝申し上げ、結びとさせていただきます。ありがとうございます。



部活動結果

【地区大会】

【女子】

無差別級

1位 福場悠(1年)

2位 浦野満帆(2年)

◎高体連後志支部予選

団体戦

◎小樽・後志春季大会

【男子】 準優勝

【女子】 準優勝

◎北海道高等学校総合体

育大会 小樽支部予選会

【男子】 優勝

【女子】 第三位

【柔道部】

◎小樽支部春季大会

個人戦

【男子】

66 kg級

3位 野村一颯(2年)

73 kg級

3位 吉田一平(2年)

90 kg級

1位 加藤勇哉(2年)

2位 角間礼(3年)

90 kg 超級

2位 酒井海聖(3年)



52 kg 超級 1位 福場

2位 武藤美久(2年)

1位 浦野

52 kg級

【女子】

81 kg 超級 2位 酒井

2位 角間

81 kg級

1位 加藤

73 kg級

3位 吉田

60 kg級

3位 野村

【男子】

個人戦

【女子】 優勝

【男子】 優勝

【サッカー部】

◎地区春季選手権大会

優勝

準決勝 合同 0-5

決勝 俱知安 0-1

◎選手権大会小樽支部予選

選 準優勝

準決勝 合同 1-2

決勝 北照 6-1

【卓球部】

◎国体小樽地区予選卓球大会

大会

【少年男子シングルス】

優勝 高橋颯太(3年)

3位 山田一輝(3年)

ベスト8 薄田健治(3年)

荒井航太郎(3年)

支部代表菊地一央(2年)

◎春季小樽支部大会

【男子ダブルス】

優勝 高橋・薄田

2位 山田・荒井

【男子シングルス】

3位 山田

ベスト8 高橋

2回戦進出

薄田・中井寛仁(2年)

2回戦敗退

荒井・熊谷度胸(1年)

◎高体連小樽支部予選

【男子学校対抗】 第3位

予選リーグ

桜陽3-未来創造0

桜陽2-潮陵3

【男子ダブルス】

初戦敗退 高橋・薄田

山田・荒井

中井・菊地

【女子ダブルス】

初戦敗退 杉村・嘉藤

【男子シングルス】

第3位 高橋

ベスト16 荒井・山田

2回戦進出 薄田・菊地

【陸上競技部】

◎小樽支部高等学校陸上競技大会

競技大会

【男子100m】

2位 小笠原翔(2年)

7位 齊藤優斗(3年)

8位 東海林洸介(2年)

【男子200m】

2位 小笠原

7位 菊地尋倅(1年)

予選敗退 齊藤優樹(1年)

【男子400m】

5位 齊藤実都瑠(1年)

6位 小笠原

8位 齊藤優樹

【男子800m】

1位 下地温斗(3年)

予選敗退 多田喜(1年)

【男子1500m】

1位 下地

4位 鎌田遼(1年)

予選敗退 多田喜

【男子5000m】

1位 土屋拓夢(3年)

4位 鈴木海音(1年)

6位 菊地

【男子400m障害】

4位 齊藤優樹

【男子3000m障害】

1位 鎌田

2位 多田喜

【男子5000m競歩】

1位 土屋

(支部高校新記録)

【男子4×100 mリレー】

1位 山本拓実(3年)・

齊藤優斗・東海林・小笠原

【男子4×400 mリレー】

3位 齋藤・齊藤優斗・

小笠原・下地

【男子走高跳】

4位 多田祐月(2年)

【男子走幅跳】

2位 東海林

7位 齊藤優斗

【男子三段跳】

2位 山本

4位 上野由喜(1年)

【男子砲丸投】

7位 山本

8位 齋藤

予選敗退 多田祐月

【男子円盤投】

7位 土屋

8位 多田祐月

【男子ハンマー投】

4位 山本

6位 菊地

【男子やり投】

3位 齊藤優斗

6位 鈴木

【男子八種競技】

1位 菊池柊弥(3年)

【女子100 m】

予選敗退 滝澤夢奈(1年)

予選敗退 栗谷姫乃(1年)

【女子4×100 mリレー】

4位 栗谷・

本庄紅葉(1年)・滝澤・

山田藍璃(2年)

【女子4×400 mリレー】

3位 栗谷・滝澤・山田・

本庄

【女子砲丸投】

3位 栗谷

6位 山田

8位 滝澤

【女子円盤投】

5位 山田

【女子ハンマー投】

2位 栗谷

3位 滝澤

4位 本庄

【女子やり投】

3位 山田

【女子七種競技】

2位 本庄

【弓道部】

◎小樽支部高校弓道春季大会

【男子団体】 準優勝

【女子団体】 準優勝

【男子個人】

優勝 伊名野理叶(2年)

【女子個人】

優勝 吉田茉央(2年)

準優勝 本間陽音(3年)

◎高体連小樽支部弓道選手権大会

【男子団体】 優勝

【女子団体】 3位

【男子個人】

優勝 伊名野

3位 三浦昂輝(3年)

【女子個人】

優勝 菊池夏妃(2年)

◎小樽市民スポーツ大会

弓道大会(少年の部)

団体3位・桜陽A(伊名野・

佐藤優妃(1年)・菊池)

【野球部】

◎春季大会小樽支部予選

2回戦

小樽明峰 11―0 勝利

準決勝

小樽双葉 1―13 敗退

◎選手権大会南北海道大会

小樽支部予選

2回戦

小樽明峰 6―1 勝利

準決勝

小樽双葉 0―12 敗退

決勝リーグ 3位

83―98 俱知安

67―121 小樽潮陵

96―66 未来創造

【バドミントン部】

◎春季大会

【男子ダブルス】

3位 金澤俐玖(2年)

大瀧煌之祐(2年)

【女子ダブルス】

ベスト8

世戸奏音(3年)

檜崎詩織(3年)

飯田春香(2年)

高橋彩花(2年)

坂井花実(3年)

千葉来海(2年)

【男子シングルス】

金澤 4位

【男子団体】 4位

【女子団体】 1回戦敗退

◎高校選手権大会小樽支部予選会

【男子ダブルス】

金澤・大瀧 ベスト8

【女子ダブルス】

榎崎・世戸 ベスト8

高橋・飯田 ベスト8

【男子シングルス】

金澤 3位

【女子シングルス】

高橋 ベスト8

【男子団体】 3位

【女子団体】 初戦敗退

◎小樽地区バドミントン選手権大会

【男子ダブルス】

金澤・大瀧 優勝

【男子シングルス】

金澤 準優勝

大瀧 ベスト8

【女子ダブルス】

高橋・飯田 準優勝

【女子シングルス】

飯田 ベスト8

◎全日本ジュニア(南北海道ブロック)小樽支部出場選手選考会

【男子ダブルス】

金澤・大瀧 勝利

【テニス部】

◎小樽支部春季大会

【男子ダブルス】

優勝 山形海(3年)

浦田優哉(1年)

【男子シングルス】

優勝 山形

準優勝 浦田

4位 津田溪一郎(2年)

【女子ダブルス】

4位 宮村咲衣香(3年)

前川空笑(1年)

【女子シングルス】

優勝 宮村

◎小樽支部選手権大会

【団体戦】

男子優勝・女子3位

【男子シングルス】

優勝 山形

準優勝 浦田

【女子シングルス】

優勝 宮村

【男子ダブルス】

優勝 山形・浦田

◎国体後志地区予選大会

【少年男子シングルス】

優勝 山形

準優勝 浦田

◎小樽ジュニアシングルス選手権大会

【男子18才以下】

優勝 浦田

4位 津田

◎小樽ジュニアダブルス選手権大会

【男子18才以下】

3位 津田・浦田

【女子18才以下】

4位 佐藤・前川

【女子16才以下】

優勝

坂井杏花里(1年)

嶋崎絆夏(1年)

【ラケット部】

◎高体連小樽支部大会

対 小樽潮陵

12-26 準優勝

◎ソフトテニス部

◎小樽支部春季団体ソフトテニス大会

トテニス大会

【男子団体】 優勝

【女子団体】 優勝

◎高校ソフトテニス選手権大会小樽支部予選会

【男子団体】 優勝(全道)

【女子団体】 優勝(全道)

【男子ダブルス】

優勝 横道謙(2年)

加藤竜馬(2年)

準優勝 山口礼輝(3年)

加我昂大(3年)

【女子ダブルス】

準優勝 藤原叶帆(3年)

本間彩華(3年)

第3位 森愛凜(3年)

菊地萌々香(3年)

◎小樽支部ソフトテニス高校国体予選大会

【男子ダブルス】

優勝 横道・加藤

準優勝 小山慎悟(2年)

奥山春樹(2年)

【女子ダブルス】

優勝 仙保柚奈(2年)

嶋田礼海(2年)

準優勝 羽立暖菜(2年)

松井菜々花(2年)

◎NHK杯全国高校放送コンテスト後志支部大会

【朗読部門】

3位 若宮花凜(1年)

【テレビドキュメント部門】

2位 遠藤良太(2年)

第4位 金山詩奈(1年)

玄野梨愛(1年)

◎小樽支部高校新人ソフトテニス大会

【男子団体】 優勝

【女子団体】 準優勝

【男子ダブルス】

優勝 横道・加藤

準優勝 小山・奥山

【女子ダブルス】

優勝 仙保・嶋田

第4位 羽立恋

松井野々花(2年)

【男子シングルス】

優勝 加藤

準優勝 横道

【女子シングルス】

第3位 羽立恋

【放送局】

◎NHK杯全国高校放送コンテスト後志支部大会

【朗読部門】

3位 若宮花凜(1年)

【テレビドキュメント部門】

2位 遠藤良太(2年)

【放送局】

◎NHK杯全国高校放送コンテスト後志支部大会

【朗読部門】

3位 若宮花凜(1年)

【テレビドキュメント部門】

2位 遠藤良太(2年)

【放送局】

【書道部】

◎高文連後志支部書道展・研究大会

特選 谷藤瑠彩（2年）
秀作 小野来瞳（3年）
若林結唯（3年）

【美術部】

◎高文連後志支部美術展・研究大会

全道推薦：谷澤紗代（3年）
小松谷咲良（3年）
櫻井心雪（1年）
佳作（全道推薦次点）・・
石川琴（1年）
寺田紗奈（1年）

【吹奏楽団】

◎高文連後志支部音楽発表大会
合同演奏の部 参加



【全道大会】

【バレー部】

◎北海道高等学校総合体育大会バレーボール競技会

【男子】

予選ブロック戦
小樽桜陽 0-2 北海
小樽桜陽 2-0 函館工業
ブロック決勝
トーナメント戦
ベスト 16
小樽桜陽 0-2 北科大高

【卓球部】

◎国体卓球北海道予選会
【少年男子シングルス】

1 回戦敗退；菊地
2 回戦敗退；荒井・高橋
3 回戦敗退；薄田
3 回戦進出；山田

◎全国高等学校卓球選手権大会北海道予選会

【男子シングルス】
1 回戦

高橋（桜陽） 3-1 日体大
2 回戦

高橋（桜陽） 0-3 北科大

【陸上競技部】

◎全国高等学校陸上競技選手権大会

【男子 100 m】

小笠原 予選敗退

【男子 200 m】

小笠原 予選敗退

【男子 800 m】

下地 予選敗退

【男子 1500 m】

下地 予選敗退

【男子 5000 m】

土屋 棄権

【男子 3000 m 障害】

多田喜 予選敗退

鎌田 棄権

【男子 5000 m 競歩】

土屋 失格

【男子 4 × 100 m リレー】

山本・齊藤優斗・東海林・小笠原 準決勝敗退

【男子 4 × 400 m リレー】

齊藤優樹・小笠原・菊地・多田祐月 予選敗退

【男子 走幅跳】

東海林 予選敗退

【男子 三段跳】

上野 予選敗退

山本 予選敗退

【男子 やり投】

齊藤優斗 予選敗退

【男子 八種競技】

菊池 25 位

【女子 4 × 400 m リレー】

栗谷・滝澤・山田・本庄 棄権

【女子 砲丸投】

栗谷 予選敗退

【女子 ハンマー投】

栗谷 予選敗退

【女子 ハンマー投】

栗谷 予選敗退

栗谷 予選敗退

【女子 やり投】

山田 予選敗退

【女子 七種競技】

本庄 19 位

◎日本陸上競技選手権大会北海道予選会

【男子 10000 m 競歩】

土屋 4 位

【男子 4 × 100 m リレー】

山本・齊藤優斗・東海林・小笠原 予選敗退

◎国体陸上競技大会北海道選手権大会

【少年 A 男子 100 m】

小笠原 予選敗退

【少年 共通男子 5000 m 競歩】

土屋 5 位

【少年 B 男子 走幅跳】

上野 7 位

【少年 B 男子 走幅跳】

上野 7 位

【少年 B 男子 走幅跳】

上野 7 位

◎北海道高等学校バドミントン選手権大会

【男子団体】 1 回戦敗退

◎全日本ジュニア出場選手選考会（南北海道）

選手選考会（南北海道）

選手選考会（南北海道）

選手選考会（南北海道）

【男子ダブルス】

金澤 大瀧 1回戦敗退

◎北海道バドミントン

選手権大会(高校の部)

【男子ダブルス】

金澤・大瀧 2回戦敗退

【女子ダブルス】

高橋・飯田 1回戦敗退

【男子シングルス】

金澤 2回戦進出

【テニス部】

◎北海道高校選手権大会

【団体戦】 対札幌日大

0-3 1回戦敗退

【シングルス】

男子 山形 2回戦敗退

浦田 2回戦敗退

女子 宮村 2回戦敗退

【ダブルス】

男子 山形・浦田 2回戦敗退

◎国体北海道予選会

【少年男子】

浦田 1回戦敗退

山形 2回戦敗退

【ソフトボール部】

◎北海道高等学校ソフト

ボール選手権大会

0-15 対伊達開来

1回戦敗退

◎国体北海道ブロック予

選会

後志選抜(小樽桜陽)

12-19 北空知選抜

【ソフトテニス部】

◎ソフトテニス選手権大

会

【男子団体】

加我・山口・奥山・加藤・

古川・小山・高島・横道

1回戦敗退

(対帯広農業 0-3)

【女子団体】

甘利・金本・菊池・本間・

藤原・森・松井野・仙保・

嶋田・羽立恋 1回戦敗退

(対札幌西 0-3)

【男子ダブルス】

山口・加我 1回戦敗退

横道・加藤 1回戦敗退

◎北海道高校国体大会

【男子ダブルス】

横道・加藤 1回戦敗退

小山・奥山 1回戦敗退

【女子ダブルス】

仙保・嶋田 1回戦敗退

羽立暖・松井菜

1回戦敗退

【柔道部】

◎北海道高校柔道大会

【男子団体】

決勝トーナメント進出

【女子団体】

1回戦敗退

【男子個人】

60 kg級 野村・速国

1回戦敗退

73 kg級 吉田・菅原

1回戦敗退

81 kg級 角間

1回戦敗退

加藤勇哉 3回戦進出

【女子個人】

48 kg級 浦野・武藤

1回戦敗退

78 kg超級 福場 3位

【ボート部】

◎北海道高校ボート選手

権大会

【男子ダブルスカル】

南優歌(3年)内藤敦雄

(2年) 第4位

【男子シングルスカル】

中條遥矢(3年)予選敗退

本多玄樹(2年)

準決勝敗退

【女子ダブルスカル】

第3位 柴田倅楓(2年)

福土菜緒(2年)

◎国体ボート競技 北海

道ブロック予選会

【男子舵手付きクオドル

プル】

(北海道選抜)南 第1位

【男子シングルスカル】

内藤 第2位

本多 第4位

【女子シングルスカル】

福土 第2位

柴田 第3位

【放送局】

◎「Nコン」北海道大会

【朗読部門】参加 若宮

【テレビドキュメント

部門】

参加 遠藤

【全国大会】

【新聞局】

◎令和5年度全国総文祭

北海道代表 参加

【山岳部】

◎スポーツクライミング

リードユース日本選手権

南砺大会

酒井雪羽(1年)36位(カ

テゴリー・ジュニア女子)

◎スポーツクライミング

ボルダリングユース日本

選手権倉吉大会(鳥取県)

酒井44位(カテゴリー・

ジュニア女子)